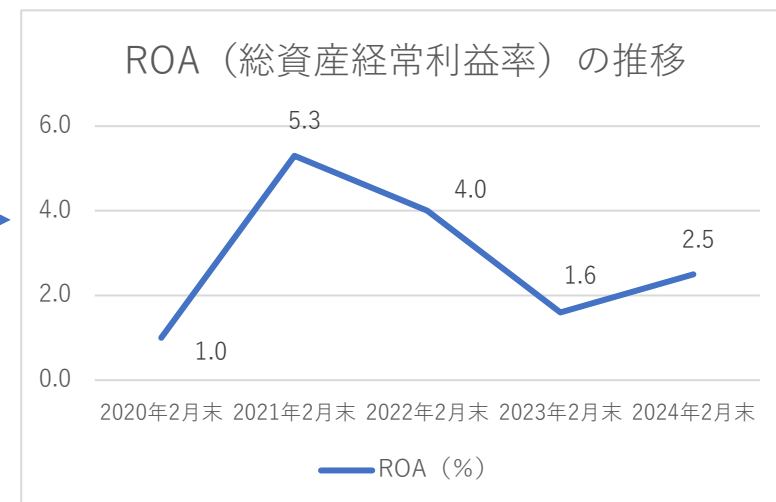
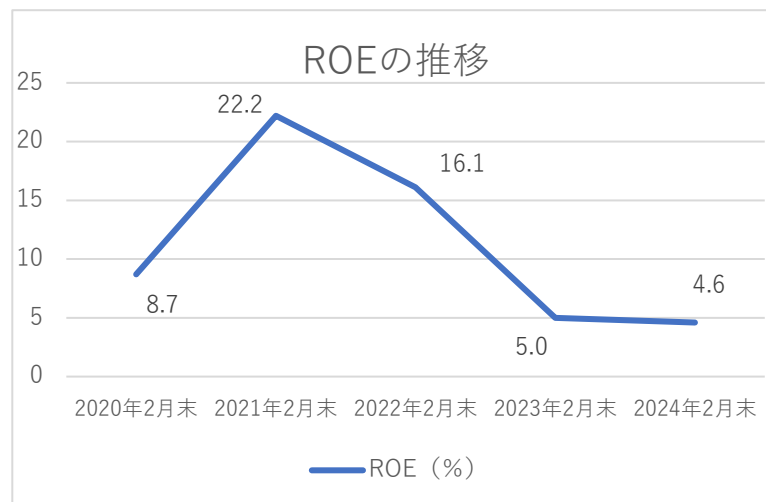
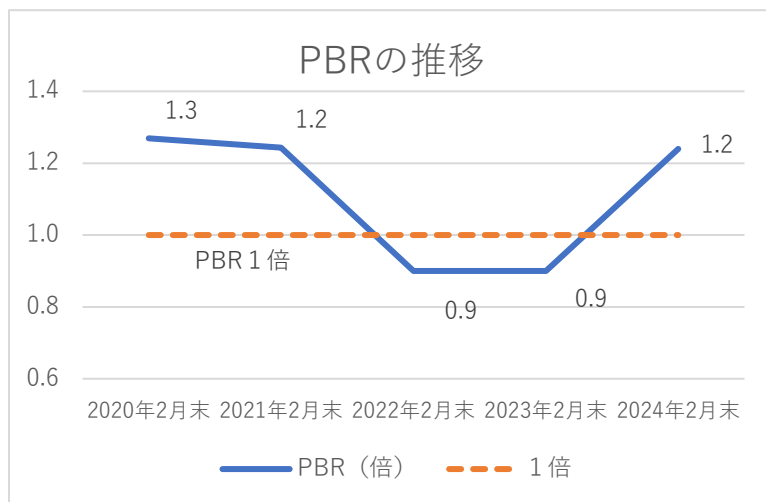
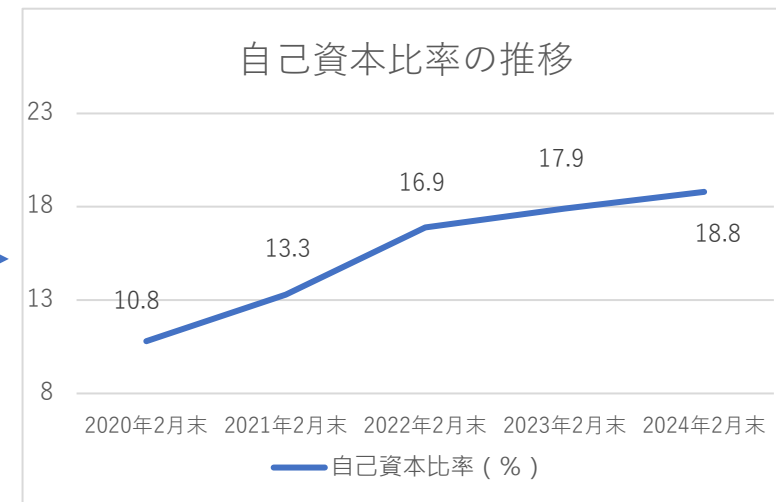
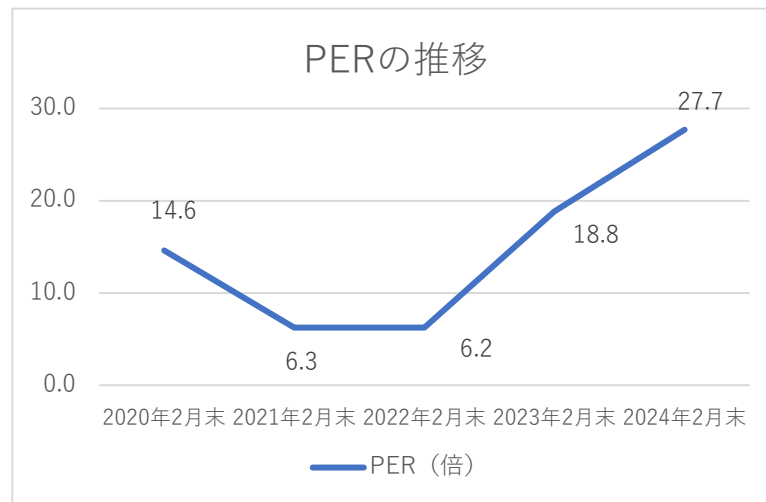
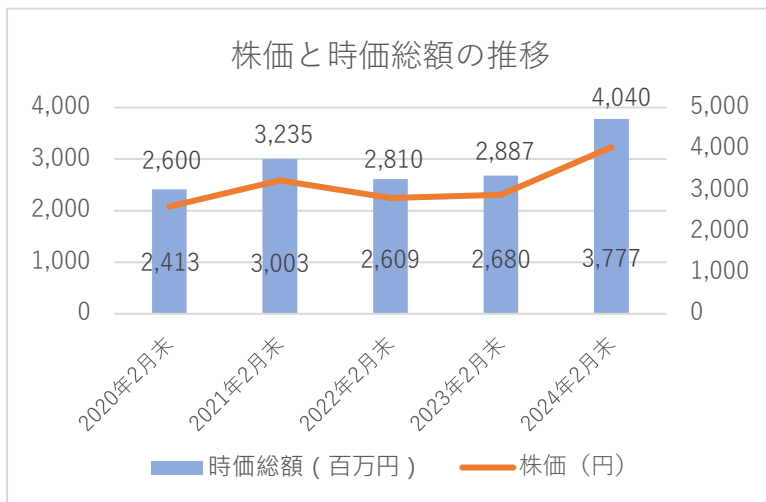


資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

株式会社マルヨシセンター

現状分析・評価

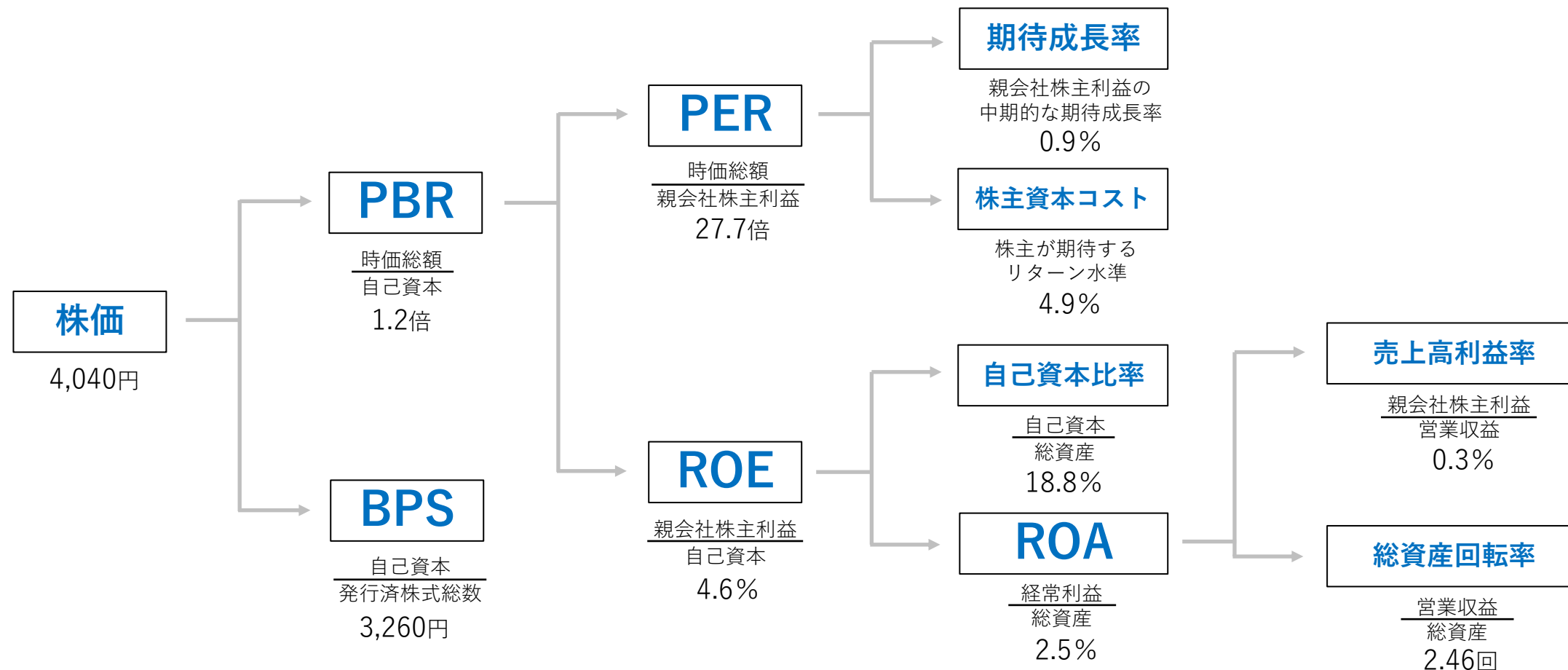
- 株価の上昇に伴いPBRは1倍を超えている状況である。しかし、投下資本に対して十分な利益回収ができていないことからROEは低迷している。
- また、自己資本比率も、上昇傾向ではあるが、20%を下回っており、財務体質の安定には自己資本比率の向上が必要である。
- ROEと自己資本比率が低水準である原因は、出店や製造事業所への投資に対する利益率の低さにあると考える。



現状分析・評価

- PBRの維持向上のための課題は、ROEの向上である。
- しかし、当社の最重要課題は自己資本（比率）を向上させ、安定した財務基盤を構築することにある。現状では、自己資本比率と反比例の関係にあるROEの向上よりも、自己資本比率の向上を優先させる。
- また、資本効率を示す経営指標としては、ROEに代わってROAを用いる。
- 自己資本比率を向上させることを目的に、ROAを指標とした投下資本に対する回収利益水準を引き上げる具体的行動をとる。

□PBR向上のためのロジックツリー 株式会社マルヨシセンター-2024年2月末日時点



事業戦略

具体的施策

- ①生産性の向上
 - ・好商圈に立地しているが、売上を伸ばし切れていない店舗の改装による収益性の向上
 - ・収益性が低い店舗の改廃
 - ・会社の生産性の改善
 - －積極的な省力化投資
 - －ムダの削減（店舗・本部）
 - ・(株)イズミとの仕入/物流/システム統合による利益率の向上
- ②製造部門の収益性の向上
 - ・不採算ラインの廃止
 - ・グループに有益なラインへの投資
 - ・供給品目、出荷量の拡大によるグループ利益の向上
 - ・(株)イズミとの協業による出荷高の拡大

具体的施策

- ①積極的な人的投資
 - ・有能な人材への投資を行い、生産性とモチベーション向上を図る。
 - ・女性活躍の推進
 - －KPIを設定し、進捗を管理
 - ・採用活動の強化
- ②健康経営

財務戦略

具体的施策

- ①現預金の圧縮
- ②保有株式の売却
- ③遊休資産の整理

資本コストを意識した経営に向けた方針

○数値目標： 自己資本比率 23.0%、 ROA 3.0% (2028年2月末時点)

